

しぜんでアート・びじゅつかんしょう

白金小学校 1年1組 32名

指導者 竹内 清美

1. はじめに

幼児期の子どもたちは、日常、泥んこ遊びをしたり地面に絵を描いたりして遊んでいる。

小学校に入りこのような体験は、図工の授業の造形遊びで取り上げられる。造形遊びは、形に残らずその場で消えてしまうので、平面教材の表現手段として利用されることがあまりない。一年生のほとんどの児童は、平面教材は『絵』であり、『絵』はクレヨン、パス、絵の具、色鉛筆、マーカー、筆などの材料や道具を使ってかくものという既成概念を持っている。

そこで、教師が「『絵』は前述したもの以外でもいろいろな材料や道具を使ってかくことができる、どんな材料が思い浮かぶか。」と児童に質問したところ『砂、どろ、水、手でかく、いろいろなものをはる。』などの答えが返ってきた。

美術館には、造形遊びで行ういろいろな表現方法で制作をした作品がある。美術館に出かけ実際に作品を鑑賞して、表現の自由さと楽しさを味わわせたいと考えた。

また、一年生の生活科では四季の移り変わりを観察して、季節の自然物を使って制作する学習がある。子どもたちが答えた中から、自然のものを表現材料に使うアート体験をさせて生活科の授業と関連づけたい。

アート体験は自由にのびのびと表現する喜びや態度を養うだけでなく、一年生のこの時期に美術館で興味や関心を持続して鑑賞するのに効果的であると考えて事前に行うことにする。

2. 学習の流れ

- ・アート体験をしよう
- ・自分たちと同じ方法が使ってある作品を見つけよう（美術館）
- ・あきとなかよし（生活科）

あきの自然の物を使ってつるすかざりをつくろう

3. アート体験をしよう

日時 平成16年9月7日（水）

場所 図工室

学習目標

砂、粘土、人体、水などを使って造形遊びをし、表現の自由と楽しさを味わう。

児童の活動	留意点
-------	-----

絵は、色鉛筆、パス、クレヨン、絵の具と筆を使ってかくだけではなくて、ほかにもいろいろな方法で、かくことができるよ。みんなで考えたほうほうでかいてみよう。

① 砂をつかって絵をかこう

- 1 砂とボンドと水を混ぜ合わせる。
- 2 厚紙に自分の好きな色をぬる。
- 3 厚紙の上に①をのせて引っかいたり削ったりして下地を生かして自分の好きな絵をかく。

② ほったりけずったりして絵をかこう

- 1 乾燥したりサイクル粘土に自分の好きな色を塗る。
- 2 粘土をひっかいてイメージした世界をかく
- 3 下地と違った色を塗る

③ 手や足を使って絵をかこう

- 1 好きな色を指や手のひらや足につけて、こすったりスタンプして思いのままに画用紙にかく

④ アート体験の感想を発表しよう

- ・材料・・・厚紙、絵の具、ボンド、水、砂バケツ、皿、新聞紙、筆、くぎ
- ・六グループに分け材料が自由に使えるように十分に用意する。
- ・重くならないように、ボンドを混ぜた砂は出来るだけ薄く塗らせる。
- ・下地の色が出るように砂を削らせる。
- ・ひっかく道具の太さによって下地の色の出方が違うことに気づかせる。

- ・材料・・・乾燥したりサイクル粘土、絵の具、ボンド
- ・道具・・・くぎ、へら、
- ・乾きいった粘土は割れやすいので事前に少し水分を与える。
- ・釘が滑らないように安全に注意する。
- ・粘土が割れないように持ち方に気をつけさせる。
- ・下地の色が目立つ色を選ばせる。

材料・・・ポスターカラー、画用紙
ちり紙、新聞紙、トレー

三作品の中から自分が気に入った作品を選んで気に入ったところをグループ内で発表する。

4 美術館に行こう

美術館には、いろいろな絵があるよ。どんな絵があるか見に行こう

日時 平成16年9月9日(木) 10:00～

場所 愛知県美術館常設展示室

学習目標

事前に体験した表現技法と技法で制作されている作品を美術館で見つけ、興味や関心を持って鑑賞する。

児童の活動	留意点
<p>1 美術館ってどんなところ？</p> <p>2 美術館へ行こう 美術館には、いろいろな絵があるよ。 どんな絵があるか見に行こう</p> <p>①自分たちと同じかき方の作品を探そう</p> <ul style="list-style-type: none">① 体を使ってかく絵② 掘ったり削ったりする絵③ 砂をひっかいてかいた絵 <p>② 自分の好きな絵を見つけよう</p>	<ul style="list-style-type: none">・事前に愛知県美術館制作の鑑賞ビデオを見て鑑賞の仕方、エチケット、美術館の様子などを知らせる。・学芸員さんの話を聞いて鑑賞の仕方を確認する。・事前に学芸員さんと打ち合わせをして、該当する作品を調べておく。 <p>① 白髪一雄 ② 斉藤義重</p> <p>③ アントニ・タピエス</p> <ul style="list-style-type: none">・それぞれの技法で制作した児童作品の写真を見せて、技法を思い出させ、一技法ずつ全員で作品探しをする。・自分の好きな絵の前で座る。・巡回して児童に好きな理由を聞く。